

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

574

昨日はサンタクロースのモデルとされる「聖ニコラス」の日だった。彼が貧しい3姉妹のために煙突から入れた金貨が暖炉そばの靴下に入った話か

ら、靴下に贈り物を入れるように。コロナも5類に移行した今年、聖ニコラスは商人の守護聖人とされるのでクリスマスを含めた年末商戦の活気と冬期シーズンの入り込みを期待したい。

語源辞典では12月の師走を「一年の最後になし終える」意味の「為栗つ(しはつ)」、今年中にあるべきことは、やっておけとの説がある。今年の物価の値上がり激しく、低価格のうちに買いためた家庭も多いはずだ。家で備蓄している非常食などの賞味期限を点検する良い機会

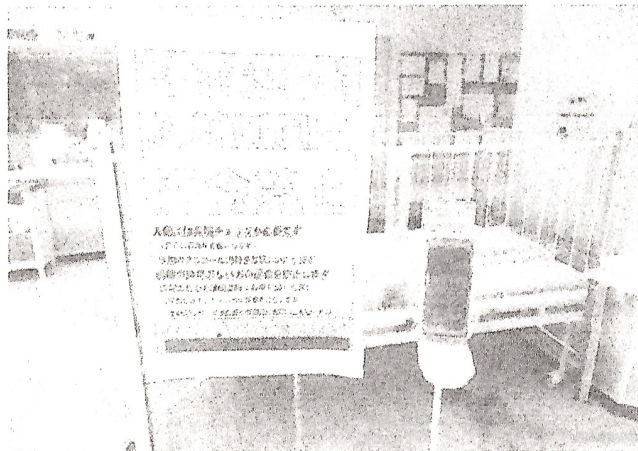
だ。だが、まだ食べられるのに捨てられる食品ロス、農林水産省の令和5年6月「令和3年度食品ロス推定値」で523万トン。内訳では事業系食品ロス量279万トン、家庭系食品ロス量は244万トンで、ほぼ半々の割合だと公表。食品ロス問題専門家・井出留美さんの自著「賞味期限」で「賞味期限は本来の期間より約2割かそれ以上、短めに設定することが多いので、ニオイを嗅ぐ、目で見る、などの五感を使って問題ない

と判断できれば、食べたいと記している。物価高による貧困、戦禍や異常気象により十分な食事ができない現状は世界各地の情報から多くの人が知る痛ましい現実があるからこそ、私たちが歳を重ねるごとに時間の感覚が速くなったと、思っていたが、シチズン

## 食品ロスを意識した行動が求められている

み苦しむとそのぶん、想像力が育つ。思いやりとは、つまり想像力なのだ。12月は想像力を大いに働かせる時間でもある事を肝に銘じてほしいと願っている。

とっては「はるか昔」の話題と受け取ってしまうのだろうか。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



病院の病棟入り口に面会規制の告知。現場の医療関係者や支える家族の皆さんに感謝だ